

平成 21 年度
(2009 年度)

事業報告書

自 2009 年 4 月 1 日

至 2010 年 3 月 31 日

財団法人日本映像国際振興協会

平成 21 年度 事業実績報告書

・ [事業の状況]

(1) 国際映画祭事業

- 名 称： 第 2 2 回東京国際映画祭
- 主 催： 財団法人日本映像国際振興協会
(ユニジャパン / 第 2 2 回東京国際映画祭実行委員会)
- 共 催： 経済産業省 (マーケット部門)、東京都 (コンペティション部門)、
文化庁 (映画人の視点)
- 期 間： 平成 2 1 年 1 0 月 1 7 日 (土) ~ 平成 2 1 年 1 0 月 2 5 日 (日)
- 企 画： コンペティション、特別招待作品、アジアの風、日本映画・ある視点、
ワールド・シネマ、natural TIFF、みなと上映会、TIFFCOM 2009、
第 6 回文化庁映画週間 他
- 会 場： 六本木ヒルズ (港区) をメイン会場とし、その他都内劇場及び施設・
ホールを使用
- 後 援： 総務省 / 外務省 / 環境省 / 観光庁 / (財) J K A / (独) 国際交流基金 /
港区 / (独) 日本貿易振興機構 / (社) 日本経済団体連合会 /
東京商工会議所 / (社) 日本映画製作者連盟 / (社) 映画産業団体連合会 /
(社) 外国映画輸入配給協会 / モーション・ピクチャー・アソシエーション
(M P A) / 全国興行生活衛生同業組合連合会 / 東京都興行生活衛生同業
組合 / (財) 角川文化振興財団 / (財) デジタルコンテンツ協会 /
(財) 港区スポーツふれあい文化健康財団 / (社) デジタルメディア協会 /
N P O 法人映像産業振興機構 / (社) 日本映像ソフト協会
- 助 成： 芸術文化振興基金
- 補 助： 財団法人 J K A (競輪公益資金)
- スペシャル パートナー： トヨタ自動車株
- オフィシャル パートナー： (株) 木下工務店 / 日本コカ・コーラ株 / 富士ソフト株
- 協 賛： キャノン株 / (株) 大和証券グループ本社 / (株) ファンケル / パナソニック株 /
楽天株 / 森ビル株 / (株) WOWOW / (株) SANKYO / 凸版印刷株 /
(株) AOKIホールディングス / 富士フイルム株 / ぴあ株 / (株) ローソン /
松竹株 / 東宝株 / 東映株 / 角川映画株 / 日活株 / TOHOシネマズ株 /
(社) 映画文化協会 / (株) ティーワイ リミテッド
- 特別協力： 読売新聞東京本社
- 協 力： (株) NTTドコモ / 帝人株 / テレビ朝日 / (株) J-WAVE /
ジュピターエンタテインメント株

[開催概要]

第22回東京国際映画祭は平成21年10月17日(土)から10月25日(日)までの9日間、六本木ヒルズをメイン会場として、その他都内の会場を使用して開催された。今年で6回目を迎えたマーケット部門(TIFFCOM2009も六本木アカデミーヒルズ内で開催されたが、各会場とも大変な賑わいを見せ、好評裡に終了することが出来た。

"Action! For Earth,, 昨年に引き続き「エコロジー」をテーマに、更なる飛躍へのステップとして、映画を通じて地球環境を考えるための様々な取り組みを行なった。全上映をグリーン電力で実施、さらにグリーントイ晚餐会、Earth Conferenceなどのイベントを行なった。

今映画祭の自主企画は19企画、動員数は115,692名、上映作品数は168本であった。提携企画まで入れると、企画総数は29、総動員数は418,232名、総上映作品数は291本となった。

オープニングセレモニーは10月17日(土)に、TOHOシネマズ六本木ヒルズ内で開催された。依田チェアマンの開会宣言の後、特別参加の鳩山由紀夫内閣総理大臣が祝辞を述べられた。続いて国際審査委員及びコンペティション作品の紹介が行なわれた。

オープニング作品は、ジャック・ペラン監督の「オーシャンズ」で、監督、声の出演者たちによる舞台挨拶もあり、盛況のうちに上映された。終映後、グランドハイアット東京の宴会場に場所を移し、歓迎レセプション、グリーントイ晚餐会が行なわれた。

クロージングセレモニー(授賞式)は、10月25日(日)TOHOシネマズ六本木ヒルズ内で開催された。授賞式では、「最優秀アジア映画賞」「日本映画・ある視点作品賞」の贈賞に続き、「コンペティション」各部門の授賞が発表された。コンペティション部門の「東京サクラグランプリ」はカメン・カレフ監督の「イースタン・プレイ」に贈られた。また、「最優秀アジア映画賞」はウニー・ルコント監督の「旅人」に、「TOYOTA Earth Grand Prix」はニコラ・ヴァニエ監督の「WOLF 狼」に贈られた。

[自主企画]

(1) コンペティション (共催：東京都)

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2009年1月以降に完成した35ミリ長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備審査を経た15作品を期間中上映した。各作品の上映後に招聘したゲスト(作品関係者)によるティーチ・インを行い、観客との交流の輪を広げた。

国際映画製作者連盟の規約に従い、6名(日本人2名を含む)で構成される国際審査委員

会を設けて作品の審査を行い、東京サクラグランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀主演女優賞、最優秀主演男優賞、最優秀芸術貢献賞の6賞が決まり、10月25日の閉会式会場で発表された。東京サクラグランプリには5万米ドル、審査員特別賞には2万米ドル、その他の賞に5千ドルが副賞として贈られた。東京サクラグランプリ作品には東京都知事から賞状とトロフィー（麒麟像）が贈られた。また、みなと委員会の協力により、一般客の投票による観客賞が設けられ、賞金1万ドルが1作品に贈られた。

東京 サクラ グランプリ：『イースタン・プレイ』（監督 カメン・カレフ）

審査員特別賞：『激情』（監督セバスチャン・コルデロ）

最優秀監督賞：カメン・カレフ（作品『イースタン・プレイ』）

最優秀主演女優賞：ジュリー・ガイエ（作品『エイト・タイムズ・アップ』）

最優秀主演男優賞：フリスト・フリストフ（作品『イースタン・プレイ』）

最優秀芸術貢献賞：該当なし

上映数 15作品 動員数 10,181名

（2）特別招待作品

国内未公開の話題作品を22本上映した。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。

上映数 22作品 動員数 9,623名（「追加上映」1本を含む）

（3）アジアの風

現在世界でもっとも熱気が感じられるアジアの映画を対象に、さらに地域を拡大して、選定した新作に、「エジプト映画パノラマ～シャヒーン自伝4部作と新しい波」、「ディスカバー～亜州電影～アーカイブの宝石」の他、「アン・ホイ特集」、「追悼ヤスミン・アフマド」等4特集を合わせた45本を上映、各作品のスタッフや出演者を招聘して観客との交流をはかるとともに、国際映像マーケットにも参加してもらい、アジア映画の産業の発展に繋げることが出来た。

上映数 45作品 動員数 10,650名

最優秀アジア映画賞

「アジアの風」部門で上映された作品の中から、アジア映画賞審査委員会により1作品が選ばれ、賞金1万ドルが贈られた。

最優秀アジア映画賞：『旅人』（監督 ウニー・ルコント）

公開タイトル『冬の小鳥』

（4）日本映画・ある視点

活況を増している日本映画を対象に、ある角度から焦点を絞った選考を行ない、一般観客を始め、海外からのゲストにも新しい日本映画の躍動を紹介する企画である。個性に溢れ

た多様性のある作品 8 本を上映した。

上映作品の中から、審査委員会により作品賞が選ばれ、100万円が贈られた。

作品賞 『ライブテープ』 監督 松江 哲明

上映数 8 作品 動員数 2,556名

(5) ワールドシネマ

欧米の映画を中心に、他の国際映画祭で高い評価を受けた秀作や、有名監督の日本では未公開の作品など、世界で話題になっている新作の数々を紹介する企画である。加えて、国際審査員でもあるイエジー・スコリモフスキの60年代の作品群と、カンヌの常連でありながら日本では殆ど紹介されていないカルロス・レイガダスの作品を特集した。

上映本数 16 作品 動員数 4,920名

(6) natural TIFFF

エコロジーをテーマに掲げた本映画祭が21回から新たに設けた部門。「自然と人間の共生」という視点から、ドラマ、ドキュメンタリーを含め、また新作、旧作を問わず柔軟な選定を行なった。

上映本数 9 作品 動員数 1,540名

TOYOYA Earth Grand Prix

「natural TIFFF」部門で上映された新作を対象に、審査委員会の審査により、1作品が選ばれ、賞金5千ドルが贈られた。

TOYOTA Earth Grand Prix :「ウルフ 狼」(監督 ニコラ・ヴァニエ)

[共催企画]

(7) 第6回文化庁映画週間

「文化庁映画賞の授賞並びに記念上映会」

優れた文化記録映画3作品に対する「文化庁映画賞」の授賞と、記念上映会を開催。併せて、永年にわたり日本映画を支え、顕著な業績を挙げた功労者7名を懸賞した。

「全国映画祭コンベンション」

本年度の邦画作品別興収データをもとに、ミニシアター、シネコンの動員傾向を分析し、日本のインデペンデント映画館の将来的展望について論議した。

「全国フィルムコミッション・コンベンション」

「ヒットアニメに学ぶロケハン術」をテーマに、「サマー・ウォーズ」の細田守監督と「マイマイ新子と千年の魔法」の片淵直監督がFC関係者と共に、知られざるロケハン術をシンポジウムで語った。

「映画人の視点」

3日間にわたり、是枝裕和、真田広之、松田優作という日本を代表する映画人をオールナイトで特集。本人と、ゆかりの豪華なゲストを迎えたトークイベントと、人気作

品の上映で映画ファンとの交流を図り、盛況を博した。

(8) みなと上映会

親子で楽しめるプログラムが毎年好評の上映会。「ベティの小さな秘密」やキンダー・フィルム・フェスティバルの協力により集められた海外でも評判の高い子供向けの秀作をライブシネマ上映を含め10本上映した。

[提携企画]

(9) 東京国際女性映画祭 10月17日(土)～10月21日(水)

東京国際映画祭と同時にスタートした「女性映画祭」も22回を迎えた。今年は田中絹代生誕100年記念番組「女ばかりの夜」の上映に始まり、7カ国の10作品を上映した。ベテラン監督に加え、日本の4人の新人監督を紹介し、シンポジウム「私たちの選択」を実施して好評のうちに終了した。

(10) コリアン・シネマ・ウィーク 2009 10月18日(日)～10月19日(月)

今回は日本で劇場未公開の3作品を上映した。この部門での映画の上映は、韓国の文化社会を紹介する上で、意義深いイベントとなっている。舞台挨拶には「牛の鈴音」のイ・チョンヨル監督等が登場し好評を博した。

(11) ショートショートフィルムフェスティバル & アジア「フォーカス オン アジア」

10月22日(木)～10月25日(日)

2009年度の受賞作品を含む、選りすぐりのアジア作品を上映。ユ・ジテ監督も来場し新作「招待」について熱く語った。また、丹下紘希監督を迎えてのワークショップでは、「イメージする」をテーマとした講義を行なった。

(12) 2009 東京・中国映画週間 10月18日(日)～10月25日(日)

中国建国60周年記念、日中文化協定締結30周年事業として行なわれたこの「週間」は盛況のうちに開催され、上映した各ジャンルの中国新作映画は、今の中国をさまざまな視点から紹介することが出来た。

(13) 第2回したまちコメディ映画祭 in 台東 9月21日(月)～9月25日(金)

レッドカーペットは隅田川からのゲストの船乗り込みで開始。コメディ榮譽賞授与(今年はコント55号)など、昨年同様の多彩なプログラムに加え、新たに短編コンペティション、バリアフリー企画も開催した。

(14) ドイツ映画祭 2009 10月15日(木)～10月18日(日)

会場を新宿バルト9に移して2回目の開催。総動員数は昨年を下回ったが、会場は昨年同

様に賑わった。観客は中高年層 6 ~ 7 割。若年層 2 ~ 3 割、「ブッデンブローク家の人々」は毎回満席であった。

(15) G T F トーキョーシネマショー 2009 8月6日(木)~8月7日(金)

初日は、配給会社 25 社による作品プレゼンテーションと、第 5 回「筑紫賞: ゴールデンタイトル・アワード」の授賞式が行なわれた。2 日間新作の試写会が行なわれたが、人気作品が多く好評であった。

(16) その他の特別上映

「エルマンノ・オルミ監督作品『テッラ・マッドレー母なる大地』の上映」

10月21日(水) イタリア文化会館にて上映。

「田辺・弁慶映画祭 2009」

10月1日(木)~10月4日(日) 和歌山県紀南文化会館他で開催。

[顕彰・助成]

東京国際映画祭のコンペティション部門における東京サクラグランプリ他優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。

アジアの優秀作品に対する顕彰(最優秀アジア映画賞)。

日本映画の優秀作品に対する顕彰(日本映画・ある視点 作品賞)。

natural T I F F 部門の優秀作品に対する顕彰 (TOYOTA Earth Grand Prix)。

[その他]

オープニング・グリーンカーペット

10月17日(土) 六本木ヒルズ・けやき坂ストリートにて。

いまや東京国際映画祭の開幕日における恒例行事として定着したカーペット入場。沿道を埋めた 3,000 人の映画ファンが注目する中を、鳩山総理大臣夫妻をはじめ数多くの内外からの招待客や作品ゲストが、けやき坂に特設されたエコ・グリーンのカーペットの上を歩きながらセレモニー会場に入場した。

[運営]

自主企画の実施

本年度は、例年行われている「コンペティション」、「特別招待作品」、「アジアの風」、「日本映画・ある視点」、「WORLD CINEMA」、及び「natural TIFF supported by TOYOTA」を実施した。

上映会場、各種会場

六本木地区をメイン会場とした。

主要上映会場：TOHO シネマズ六本木ヒルズ（9スクリーン）
シネマート六本木（2スクリーン）

その他上映会場（提携企画を上映）：

東京都写真美術館ホール、新宿ミラノ座2、新宿ピカデリー、渋谷シアターTSUTAYA、新宿バルト9、イタリア文化会館アニェッリホール、浅草公会堂、紀南文化会館、東商ホール、秋葉原UDX

また、上映会場以外の会場として以下を使用した。

グランドハイアット東京：オープニング・レセプション、グリーンタイ晚餐会の会場として使用。

アカデミーヒルズ：49階（東京国際映画祭事務局、マーケットスクリーニング、記者会見、各種取材、各種セミナー実施、TIFFCOM フェアウェルパーティ、感謝の夕べ）

40階（TIFFCOMのマーケット会場）

3階（プレス・インフォメーション、プレス・センター）

2階（インフォメーション・デスク、IDカウンター）

ヒルズカフェ：TIFFムービーカフェとして使用。

六本木ヒルズ 大屋根プラザ：グリーンカーペット・エリアとして使用。

六本木ヒルズ 66プラザ：総合インフォメーションブースとして使用。

六本木ヒルズ アリーナ：TIFF Parkとして様々なイベントの実施に使用。

入場料金

オープニング作品・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ¥2,000 -
クロージング作品・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ¥2,000 -
コンペティション・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ¥1,000 - / ¥1,200 -
特別招待作品・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ¥1,800 -
アジアの風・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ¥1,300 - / ¥1,500 -
日本映画・ある視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ¥1,300 - / ¥1,500 -
WORLD CINEMA・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ¥1,300 - / ¥1,500 -
Natural TIFF supported by YOYOTA・・・・・・・・ ¥1,300 - / ¥1,500 -
みなと上映会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ¥1,000 - / ¥1,200 -
映画人の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ¥2,500 - / ¥3,000 -
追加上映・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ¥1,300 - / ¥1,500 -

会期中のイベント

(六本木ヒルズ アリーナイベント)

オープニング・イベント：グリーンカーペットからの流れで作品ゲストが特設ステージに登壇して挨拶をした。

配給会社作品イベント：『曲がれスプーン』（東宝）、『ゼロの焦点』（東宝）関連のイベントが実施された。

ZAMZA 『ACACIA』ライブ×いろはすecoアートプロジェクト

グリーンカーペットクラブ 東京国際映画祭チャリティ・オークション

木下工務店 presents **木下工房**

J-WAVE SPECIAL 「TIFF Earth Conference supported by TOYOTA」

くものすカルテット ライブ：映画祭出品作品関連

JLMライブステージ

『はい、もしもし大塚薬局ですが』スペシャルイベント

みなと上映会

(TIFFムービーカフェ)

会期中、六本木ヒルズの注目スポットであるヒルズカフェをTIFFムービーカフェと称して、様々な企画を行った。

コンペティション作品記者会見、国際審査委員記者会見、各種パーティ

TIFF night：DJやライブ演奏など

(グリーンカーペット・エリア)

六本木ヒルズ 大屋根プラザをグリーンカーペット・エリアと称して、映画とエコロジーをつなぐ空間を創出した。

インフォメーションブースの設置

六本木ヒルズ 66プラザ、大屋根プラザ、アカデミーヒルズエントランス内にて実施した。広く一般の六本木ヒルズ来場者に映画祭の案内を行うとともに、映画祭に訪れたマスコミ・映画業界関係者への案内業務を行った。

TIFF TIMESの発行

会期中、映画祭の各種情報などを載せた**TIFF TIMES**を9日間発行して、会場内のインフォメーション・ブース等で配布し、来場した映画ファン、関係者にも好評であった。

ボランティア・スタッフの採用

TIFFのWEBサイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場での案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらおう試みも実施した。

オリジナル・グッズの販売

TIFFオフィシャルグッズとして、ピンバッジ、エコバッグ、Tシャツを作成した。

【広報活動】

新聞広告・・・「読売新聞」、「朝日新聞」、「毎日新聞」 各紙上

劇場予告・・・首都圏の主要劇場 7月下旬/特報、9月下旬/本予告
プレスP A S S・・・取材者向けのI D登録。
プレスセンターやI D上映での利用が可能になる。

記者会見

ラインアップ記者会見 2009年 9月16日 六本木ヒルズ・タワーホール
会期中の記者会見 六本木ヒルズ・ムービーカフェ

受賞者記者会見 2009年10月25日 六本木ヒルズ・スカイスタジオ

宣伝素材・・・ティザーチラシ(7月上旬)、チラシ(全上映スケジュール入り)
公式プログラム、公式記録、ポスター2種類
T I F F T I M E S (会期中に9回発行)

パブリシティ・・・テレビ番組での特集放送、映画専門誌への特集掲載、WEBポータルサイトへの特集掲載など

一般紙、スポーツ紙：新聞合計	895媒体
映画専門誌、情報誌：紙媒体合計	350 "
NHK、民放全局、BS・CS局他：電波媒体合計	131 "
インターネット：ネット媒体合計	2,789 "
海外広報：海外媒体合計	591 "

パブリシティ合計 4,756 "

会期中は、上映会場においてマスコミ対応、また来日ゲストの個別取材等に対応した。

Cyber TIFF・・・東京国際映画祭の動画配信プロジェクト

公式WEB及びモバイルサイトでの動画配信を通して、TIFFの最新情報を発信するとともに、CS映画専門チャンネル「ムービープラス」とも組み、オープニングのグリーンカーペットの模様を中継放送。その他、事前番組、特集等でTIFFをサポートしている。

イメージネット・・・TIFFの出品作品の素材を提供しているサービス。登録者であれば誰でもアクセス出来て、写真等を取り込むことが出来る。また、情報発信のツールとしても活用。

[東京国際映画祭地区委員会の活動]

みなと委員会・・・港区、麻布警察署、麻布消防署、六本木ヒルズ自治会、港区内の各町会、商店街連合会で結成された東京国際映画祭を支援する委員会である。今回も、会期前から会期中を通じて会場周辺や港区内の各所で東京国際映画祭を盛り上げる様々な活動を展開した。

- みなと上映会 区民などの家族を対象にした上映会の開催
2009年10月17日(土)、24日(土)
TOHO シネマズ六本木ヒルズ、六本木ヒルズ・アリーナ
- 観客賞 観客が自由に選ぶコンペティション作品の賞(賞金1万米ドル)
街頭フラッグの掲出
けやき坂、麻布十番商店街、六本木商店街にて合計275枚
2009年10月10日(土)～10月25日(日)
- クリーンナップ・プロジェクト
武井港区長、依田映画祭チェアマンをはじめ約320名が参加して、六本木会場周辺の街頭清掃作業を行った。
2009年10月10日(土) 午前9時30分開始
- オリジナル広告 港区のKissポート誌に1ページ広告を掲載して、港区内の全戸に新聞折込配布した他、主要駅、公共施設で合計155,000枚を配布した。

(森ビル・六本木ヒルズ内の広報活動)

- 地下鉄通路 地下鉄コヒルトン、特設ポスターボード
- メトロハット 内周バナー、外周ガラス面シート、吊り下げバナー
- 66プラザ 水景、ポスターポ、柱面特設シート、植栽マウントフラッグ
- 大屋根プラザ 吊り下げバナー
- けやき坂 歩道照明バナー
- アリーナ ガラス柱バナー

(六本木地区内の広報活動)

- 街頭サイン 六本木商店街、材木町商店街、けやき坂の街頭に柱巻きのサインを設置
- 各店POP 六本木周辺の小売店等にパンフレットを設置する入れ物と案内ステッカーを配布

(2) 国際振興支援事業

【 展示出品支援事業 】

文化庁「海外映画祭出品等支援事業」の業務委託を受けて、平成15年から実施している継続事業である。

A. 映画祭出品支援事業

海外映画祭・映画見本市に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援

する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生監督作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本の映像コンテンツを支援対象としている。

(1) 事業の概要

支援内容：

- ・ 外国語字幕制作費の支援
- ・ 渡航費の支援
- ・ 宣伝制作物の支援

支援枠：

- ・ 映画祭・映画見本市参加への一般枠
- ・ 指定映画祭参加作品への優先枠（カンヌ、ベネチア、ベルリンなど主要映画祭）
- ・ 若手映画製作者への特別枠

(2) 平成 21 年度支援実績

- ・ 総採択数 83 件（平成 20 年度実績 79 件）
- ・ 総申請件数 280 件（同 261 件）
- ・ 支援総額 29,774,213 円（同 32,307,586 円）
- ・ 主な支援作品 カンヌ国際映画祭 『空気人形』（是枝裕和監督）
ベネチア国際映画祭 『鉄男 ザ・ブレットマン』（塚本晋也監督）
ロカルノ国際映画祭 『ワカラナイ』（小林政広監督）
ロカルノ国際映画祭 『サマーウォーズ』（細田守監督）
モントリオール世界映画祭 『ディア・ドクター』（西川美和監督）
モントリオール世界映画祭 『ヴィヨンの妻』（根岸吉太郎監督）
* 最優秀監督賞受賞
ベルリン国際映画祭 『キャタピラー』（若松孝二監督）
* 最優秀女優賞受賞

B. 映画祭出展支援事業

主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパンプース」を出展、日本映画情報センターとして活用するとともに、日本映画の輸出促進を目的として映画セールス会社にスペースを提供する。

(1) 事業の概要

カンヌ映画祭（平成 21 年 5 月 13 日～24 日）：

- ・ カンヌ映画祭見本市（マルシェ）会場内に「ジャパンプース」を出展（セールス会社

17社参加 *昨年は9社)

トロント映画祭(平成21年9月10日~19日):

- ・ トロント映画祭インダストリーセンター内に、韓国映画振興委員会(KOFIC)と共同で「アジアブース」を出展、日本からの公式上映5作品のセールス活動に協力
- ・ 国際交流基金トロント日本文化センターにて「アジア映画レセプション」を開催(9月15日)。国際交流基金、ユニジャパン、KOFICが共催

プサン映画祭(平成21年10月11日~14日):

- ・ 見本市(アジアン・フィルム・マーケット)会場内に「ジャパンプース」を出展、日本からの公式上映19作品のセールス活動に協力
- ・ 映画祭公式ホテルにて「ジャパンプールレセプション」を、VIPOとの共催で実施(10月12日)

ベルリン映画祭(平成22年2月11日~23日):

- ・ 見本市(ヨーロッパ・フィルム・マーケット)会場内に「ジャパンプース」を出展(セールス会社12社参加 *昨年は8社)

香港映画祭(平成22年3月22日~25日):

- ・ 見本市(香港フィルマート)会場内に「ジャパンプース」を出展(セールス会社9社 *昨年は11社)

【 国際共同製作支援事業 】

日本の映画製作者を対象にした国際共同製作支援事業(「J-Pitch」)。経済産業省「コンテンツ国際共同製作基盤整備事業」の業務委託を受けて、平成18年度から始まった4年間の継続事業であり、平成21年度をもって終了した。事業の成果としては、J-Pitch参加企画として6本の作品が完成公開され、平成22年度中に2本の作品が完成予定である。

(1) 事業の概要

日本映画製作者の海外派遣:

海外の主要な映画祭において実施される「企画マーケット」に、日本映画製作者を派遣し国際的なネットワーキングの機会を提供。参加マーケットとして、J-Pitchでは以下の国際映画祭とパートナー契約を交わし、それぞれの企画マーケットに選出されたプロデューサーを派遣した。

- ・ カンヌ国際映画祭「プロデューサーズ・ネットワーク」(5月) / 派遣: 6名

- ・ 上海国際映画祭「コ・プロダクション ピッチ&キャッチ」(6月) / 派遣：3名
- ・ パリ国際映画祭「パリス・プロジェクト」(7月) / 派遣：1名
- ・ トロント国際映画祭「インターナショナル・フィナンシング・フォーラム」
(9月 / 派遣：2名)
- ・ プサン国際映画祭「プサン・プロモーション・プラン (PPP)」(10月) / 派遣：2名
- ・ ロッテルダム国際映画祭「シネマート」(1月) / 派遣：3名
- ・ ベルリン国際映画祭「コ・プロダクション・マーケット」(2月) / 派遣：1名
- ・ 香港国際映画祭「香港アジア・フィルム・ファイナンス・フォーラム (HAF)」(3月)
/ 派遣：5名

海外プロデューサーとのビジネスマッチング・イベント：

- ・ 「日韓ビジネスキャンパス 2009 in 済州島」(7月14日～17日)
韓国映画振興委員会 (KOFIC) との共催により、日韓のプロデューサー15名が参加。
- ・ 「日欧プロデューサーズ・ラボ 2010 in 京都」(1月8日～11日)
ヨーロッパの映画製作者団体、ACE との共催により、日本・ヨーロッパのプロデューサー17名が参加。

(4) 平成21年度の実績 (完成し公開された J-Pitch 参加作品)

- ・ 『The Harimaya Bridge はりまや橋』(監督：アロン・ウルフォーク / 製作国：日本・アメリカ・韓国)

J-Pitch 参加プロデューサー：森浩太郎 (イレブンアーツ)

参加企画マーケット：ロッテルダム国際映画祭 (2008年)

- ・ 『今度の日曜日に』(監督：けんもち聡 / 製作国：日本)

J-Pitch 参加プロデューサー：植村真紀 (ミコット・エンド・バサラ株式会社)

参加企画マーケット：プサン国際映画祭 (2007年)

- ・ 『罪とか罰とか』(監督：ケラリーノ・サンドロヴィッチ / 製作国：日本)

J-Pitch 参加プロデューサー：榎本憲男 (東京テアトル株式会社)

参加企画マーケット：カンヌ国際映画祭 (2006年)

【 情報発信事業 】

日本映画の海外への情報発信を、インターネットまた出版事業を通して行う。

(1) 日本映画ウェブサイト「www.unijapan.org」の運営

日本自転車振興会の補助を受け、本財団の自主事業として平成15年より継続。

内容：ユニジャパンの事業案内、映画関連ニュース、国内外の映画産業情報、映画祭情報、映画支援情報を掲載、また日本映画データベース (JFDB)、J-Pitch 公式サイト、

東京国際映画祭公式サイトともリンクすることでサイトのコンテンツ充実を図った。

広報：ウェブサイトの認知をより海外に広げるために、「Screen International」カンヌ国際映画祭特集号、「The Hollywood Reporter」東京国際映画祭特集号に広告を掲載

(2) 海外向け日本映画年鑑「Japanese Film 2010」の出版

1974年(昭和49年)より継続している海外向け日本映画年鑑。文化庁「芸術団体人材育成事業」の業務委託を受けて、編集・発行・配布を行った(平成22年3月、3000部発行)。掲載内容は以下のとおり。

掲載作品：

2009年1月～12月に劇場公開された日本映画の内、選考委員会により主要な81作品を選んで日本語・英語併記で紹介

選考基準は以下の3点

- ・ 興行収入ランキング上位作品
- ・ 国内での主要な映画賞受賞作品
- ・ 海外での主要な映画祭招待作品

2009年日本映画産業統計(日本映画製作者連盟、外国映画輸入配給協会提供)

興行収入10億円以上の日本映画、映画公開本数、入場者数、平均入場料金、興行収入、スクリーン数、外国映画公開本数

日本映画関連団体・企業連絡先一覧

項目	掲載社数
映画・映像関連団体	32 (32)
映画製作会社	183 (138)
アニメーション製作会社	39 (31)
映画配給会社	123 (93)
セールス会社	31 (7)
フィルム・コミッション	107 (103)
映画祭(国内)	25 (25)
映画学校	25 (24)
現像所・機材等サービス	44 (28)

* 掲載の承諾が確認できた団体・企業を掲載。

* ()内の数字は平成20年度のもの

配布：

国内：文化庁及び関係官庁、在日外国公館、情報提供を受けた団体及び企業、

東京国際映画祭

海外：カンヌ、トロント、プサン、AFM（ロサンゼルス）、ベルリン、香港など主要映画祭及び見本市、在外公館、国際交流基金海外事務所、ジェットロ海外事務所

（３）海外向け新作日本映画カタログ「New Cinema from Japan」の出版

国際交流基金との共同事業として、平成 15 年度より継続して発行。「Japanese Film」が前年に公開された日本映画を紹介する年鑑として出版されるのに対して、「New Cinema from Japan」は未公開作を含む新作を紹介する日本映画カタログであり、作品掲載は有料（１作品 5 万円、追加作品は 1 作品につき 2 万円）。国内外の映画関係者よりセールスツールとして活用されている。

発行：

- ・ 5 月と 10 月の年 2 回、各 4000 部発行
- ・ 2009 年春号（5 月発行） 18 社 31 作品を紹介
- ・ 2009 年秋号（10 月発行） 19 社 40 作品を紹介

配布：配布先は「Japanese Film」と同じ

（４）J-Pitch 公式サイトと日本映画データベース（JFDB）

J-Pitch 事業の広報サイトとして、活動報告、共同製作支援情報を掲載。また、日本映画データベース（JFDB）ともリンクし、2002 年以降の劇場公開日本映画情報を日英バイリンガルで海外に発信している。2009 年は、全公開作品の 9 割を超える 376 本の作品データを掲載した。

公開年	掲載作品数
2002 年	40 件
2003 年	118 件
2004 年	138 件
2005 年	117 件
2006 年	223 件
2007 年	289 件
2008 年	372 件
2009 年	376 件
合計	1,673 件

【 調査研究事業 】

国際的なネットワークの構築を推進することにより、海外の映画産業情報を収集、日本の

映画製作者・事業者に情報提供を行う。同時に、日本の映画産業情報を海外の映画製作者・事業者に提供する。

(1) 国際ネットワーク構築の推進

日本映画産業の海外窓口機関として、世界主要国の映画支援機関とのネットワーク構築を進めている。

アジア・フィルム・インダストリー・ネットワーク (AFIN)

アジア映画産業の情報交換と共同事業研究を目的として、平成 17 年に日本を含む 4 カ国によって調印された。平成 21 年度には新たに 3 カ国の参加が決定した。

- ・ Korean Film Council (韓国)
- ・ Federation of National Film Associations of Thailand (タイ)
- ・ Singapore Film Commission (シンガポール)
- ・ Vietnam Media (ベトナム)
- ・ Multimedia Development Corporation (マレーシア)
- ・ Philippine Film Foundation (フィリピン)
- ・ Cambodia Film Commission (カンボジア) * オブザーバー参加

海外向け日本映画産業ガイドブックの編集、発行と J-Pitch 公式サイトへの掲載

- ・ 海外の映画製作者、映画支援機関を対象として昨年度発行した英文ガイド、「The Guide to Japanese Film Industry & Co-production」の 2010 年版を 2000 部発行
- ・ 5 月のカンヌ映画祭にて配布開始の他、J-Pitch 公式サイトにも掲載

(2) ニュースレターの発行

同じく、J-Pitch 事業の一環として実施。映画祭やマーケット情報を必要とする映画製作者、各社セールス担当者にニュースレター「ユニジャパン通信」を隔週で発行。映画祭及びマーケット開催情報、エントリー情報の他に日本映画の出品状況・受賞実績なども掲載して、世界の動向を伝える。またこの通信は本財団のウェブサイトにも転載し、より広く情報提供を行なっている。

エントリー情報を掲載した海外映画祭及びマーケットの数は以下の通り。

開催地域	掲載映画祭数
ヨーロッパ	103 件 (101 件)
南北アメリカ	44 件 (31 件)
中近東アフリカ	10 件 (19 件)
アジア太平洋	30 件 (28 件)
合計	187 件 (179 件)

()内の数字は、平成20年度のもの。

(3) 第6回文化庁映画週間(平成21年10月17日~23日、六本木ヒルズ他)

第22回東京国際映画祭開催に合わせて、文化庁の業務委託事業として実施。事業の内容は以下のとおり。

平成21年度(第7回)文化庁映画賞贈呈式及び受賞記念上映会:

・文化記録映画部門受賞作品:

文化記録映画大賞『嗚呼 満蒙開拓団』(監督:羽田澄子、製作:株式会社自由工房)

文化記録映画優秀賞『風のかたち 小児がんと仲間たちの10年』(監督:伊勢真一、製作:いせFILM)、『平成 熊あらし~異常出沒を追う~』(監督:岩崎雅典、製作:株式会社群像舎)

・映画功労表彰部門受賞者:

大橋鉄矢(映画録音)、窪田 治(映画装飾)、久米光男(映画照明)、園井弘一(映画編集)、中澤敏明(映画プロデュース)、原 一民(映画撮影)、福田慶治(映画振興)

第6回文化庁全国映画祭コンベンション:

・「映画館とは何か~変化と混沌の時代に~」

第1部『日本映画界の現在』

講演:大高宏男(映画ジャーナリスト、文化通信コラムニスト)

第2部『サンフランシスコの日本映画専門館、VIZ CINEMA』

講演:堀淵清治(Viz Pictures, Inc. 代表取締役社長)

第3部『日本におけるインディペンデント映画館の歴史』

講演:古賀 太(日本大学芸術学部教授)

第4部『インディペンデント映画館の行方』(ディスカッション)

出演:田井 肇(大分「シネマ5」支配人)、中村由紀子(東急Bunkamura「ル・シネマ」番組編成プロデューサー)、阿部律子(オープンセサミ代表)、松山大貴(経済産業省商務情報政策局メディアコンテンツ課)、佐伯知紀(文化庁文化部芸術文化課芸術文化調査官)

第7回文化庁全国フィルムコミッション・コンベンション:

・「アニメーション meets ロケーション~ヒットアニメに学ぶロケハン術~」

第1部『サマーウォーズ』のロケハン術

出演:細田 守(アニメーション監督)、原 悟(信州上田フィルムコミッション)

第2部『マイマイ新子と千年の魔法』のロケハン術

出演:片淵須直(アニメーション監督)、村田 太(山口県フィルムコミッション)

進行:岡本美津子(東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻 教授)

「映画人の視点」:

- ・ 「映画人、是枝裕和の世界」
出演：是枝裕和（映画監督）
- ・ 「映画人、真田広之の世界」
出演：真田広之（俳優）他、モデレーター：河合真也（映画プロデューサー）
- ・ 「映画人、松田優作の世界～没後 20 周年特別企画」
出演：松田美由紀（女優）他、モデレーター：河井真也（映画プロデューサー）

（４）「ジャパン・フィルム・コミッション（JFC）」活動支援

経済産業省「撮影環境ネットワーク整備促進事業」の委託事業として実施。事業の内容は以下のとおり。

国際撮影環境整備及びブロック化支援事業

- ・ 地域ブロック設立の推進
 - 全国 10 ヶ所のブロック説明会、自主事業、研修会
 - ・ 国内における海外支援作品の調査
統一支援申込書・チェックリスト作成、ロケ受入れによる経済波及効果に関する調査

海外展開事業

- ・ 海外ロケーション・マーケットへの参加
「ロケーションズ・トレードショー(サンタモニカ)」、 「BIFCOM2009(プサン)」、 「香港 FILMART」
- ・ 国際シンポジウム・研修会の開催
「東京シンポジウム」, 「AFCNet 理事会(神戸)」, 「地方シンポジウム(全国 9 ヶ所)」, 「AFCI シネポジウム(サンタモニカ)」
- ・ 「JFC 全国ロケ地フェア 2009」の開催
東京国際映画祭・TIFFCOM2009 にて実施
- ・ 海外市場調査(欧州とアジアの支援機関へのヒアリング)
イギリス(UKFC)、シンガポール(SFC)

（５）「アジア・コンテンツ・ビジネス・サミット（ACBS）」の実施運営

平成 21 年 10 月に東京で、アジア 6 カ国 1 地域の参加を得て開催された ACBS での共同宣言に基づき、経済産業省「国際ビジネス・プロデューサーネットワーク構築事業」の委託事業として実施。事業の内容は以下のとおり。

「アジア・コンテンツ・ビジネス・サミット at 香港 FILMART」の開催（平成 21 年 3 月 23 日、香港）

・ ACBS ワーキングセッション

参加国・地域：中国、香港、韓国、マレーシア、シンガポール、タイ、日本

・ ACBS オープンセミナー

主な内容：

(a) 中国 - 香港 - 日本共同プロジェクト（『梅屋庄吉プロジェクト』の紹介）

(b) 中国 - 日本共同プロジェクト（日中共同製作テレビシリーズ・アニメ『三国志演義』の紹介）

(c) アジア共同プラットフォーム（Creative Asian Pipeline プロジェクトの紹介）

ビジネス・プロデューサー育成カリキュラムの策定

・ アジアにおけるコンテンツ・プロデューサーの人材育成と交流促進を目的として「コンテンツビジネス・カリキュラム」を共同開発する。

(3) コンテンツマーケット事業

【T I F F C O M 2 0 0 9 Marketplace for Film & TV in Asia】

東京国際映画祭併設のコンテンツ・ビジネスマーケットを実施した。

ビジネスシンポジウムや各種セミナーなども開催し、映画・TVを中心とした映像コンテンツの国際取引から国際共同制作まで、ビジネスの海外展開のサポートを行った。合計参加人数は、20,185人であった。

T I F F C O M （コンテンツマーケット）

第6回目となる開催の実施。18の国と地域より212の出展団体が参加した。また、過去最高となる47の国と地域よりセラー、バイヤー、プロデューサーをはじめとした業界関係者の事前来場登録があった。

主催：経済産業省 / 財団法人日本映像国際振興協会 / 日本映像振興株式会社

共催：第22回東京国際映画祭実行委員会

連携企画：国際ドラマフェスティバル in Tokyo 2009

期日：平成21年10月20日(火)～10月22日(木)

会場：展示会場 六本木ヒルズ森タワー、六本木アカデミーヒルズ49F

スクリーニング会場 六本木アカデミーヒルズ49F

TOHO シネマズ六本木ヒルズ・スクリーン4

T P G Tokyo Project Gatherring

映画・TVなど映像コンテンツの国際共同製作・出資を推進するT P Gへ、31の国と地域より157企画が集まった。25の選出企画の出品者が、製作プロデューサー、投資家、芸能プロダクション、レコード会社等の関係者らとミーティングを行い、ビジネス・マッチングは活況を呈した。

主催：経済産業省 / 財団法人日本映像国際振興協会 / 日本映像振興株式会社

共催：第22回東京国際映画祭実行委員会

期日：平成21年10月19日(月)～10月22日(木)

会場：六本木アカデミーヒルズ49F オーディトリウム

． [処務の概要]

1. 役員に関する事項

(平成22年3月31日現在)

役職名	氏名	任期	常勤/ 非常勤	報酬 等	法人以外の現職	過去の本法人 役員就任期間
理事長	高井 英幸	平成21年6月29日～ 平成23年6月28日	非常勤	無	東宝株式会社 代表取締役社長	平成15年6月21日～ 平成21年6月28日
理事	石原 俊爾	〃	〃	〃	株式会社TBSテレビ 代表取締役社長	
〃	氏家 齊一郎	〃	〃	〃	日本テレビ放送網株式会社 代表取締役取締役会議長	平成11年6月21日～ 平成21年6月28日
〃	岡田 茂	〃	〃	〃	東映株式会社 名誉会長	平成17年6月21日～ 平成21年6月28日
〃	大藏 満彦	〃	〃	〃	全国興行生活衛生同業組合連合会 会長	平成17年6月21日～ 平成21年6月28日
〃	大谷 信義	〃	〃	〃	一般社団法人日本映画製作者連盟 会長	平成10年6月22日～ 平成21年6月28日
〃	小倉 和夫	〃	〃	〃	独立行政法人国際交流基金 理事長	平成17年6月21日～ 平成21年6月28日
〃	相賀 昌弘	〃	〃	〃	株式会社小学館 代表取締役社長	平成17年6月21日～ 平成21年6月28日
〃	角川 歴彦	〃	〃	〃	株式会社角川グループホールディングス 代表取締役会長兼CEO	平成11年6月21日～ 平成21年6月28日
〃	迫本 淳一	〃	〃	〃	特定非営利活動法人映像産業振興機構 理事長	平成17年6月21日～ 平成21年6月28日
〃	崔 洋一	〃	〃	〃	協同組合日本映画監督協会 理事長	平成17年6月21日～ 平成21年6月28日
〃	佐藤 直樹	〃	〃	〃	日活株式会社 代表取締役社長	平成18年3月27日～ 平成21年6月28日
〃	島田 昌幸	〃	〃	〃	株式会社テレビ東京 代表取締役社長	平成19年6月29日～ 平成21年6月28日
〃	高岩 淡	〃	〃	〃	東映株式会社 取締役相談役	平成 7年4月2日～ 平成21年6月28日
〃	和田 洋一	〃	〃	〃	社団法人コンピュータエンターテインメント協会 会長	平成19年6月29日～ 平成21年6月28日
〃	遠山 敦子	〃	〃	〃	財団法人新国立劇場運営財団 理事長	平成17年6月21日～ 平成21年6月28日
〃	福地 茂雄	〃	〃	〃	日本放送協会 会長	平成20年3月31日～ 平成21年6月28日
〃	廣瀬 道貞	〃	〃	〃	社団法人日本民間放送連盟 会長	平成17年6月21日～ 平成21年6月28日
〃	藤井 宏昭	〃	〃	〃	森アーツセンター 理事長	平成18年3月27日～ 平成21年6月28日
〃	高嶋 達佳	〃	〃	〃	株式会社電通 代表取締役社長	
〃	松岡 功	〃	〃	〃	一般社団法人映画産業団体連合会 会長	平成17年6月21日～ 平成19年6月28日
〃	布川 郁司	〃	〃	〃	一般社団法人日本動画協会 理事長	
〃	豊田 皓	〃	〃	〃	株式会社フジテレビジョン 代表取締役社長	平成19年6月29日～ 平成21年6月28日
〃	依田 巽	〃	〃	〃	社団法人日本経済団体連合会 エンターテインメント・コンテンツ産業部会 会長	平成17年6月21日～ 平成21年6月28日

役職名	氏名	任期	常勤/ 非常勤	報酬 等	法人以外の現職	過去の本法人 役員就任期間
理事	林 康夫	平成21年6月29日～ 平成23年6月28日	非常勤	無	独立行政法人日本貿易振興機構 理事長	平成19年6月29日～ 平成21年6月28日
監事	岡田 剛	平成21年6月29日～ 平成23年6月28日	非常勤	無	東映株式会社 代表取締役社長	平成17年4月1日～ 平成21年6月28日
〃	濱野 保樹	〃	〃	〃	東京大学大学院 教授	平成17年4月1日～ 平成21年6月28日

役職名	氏名	任期	常勤/ 非常勤	報酬 等	法人以外の現職	備 考
評議員	岡田 正代	平成21年4月1日～ 平成23年3月31日	非常勤	無	財団法人川喜多記念映画文化財団 理事長	
〃	井上 泰一	〃	〃	〃	角川映画株式会社 取締役副会長	
〃	加藤 正人	〃	〃	〃	社団法人日本シナリオ作家協会 常務理事	
〃	兼松 熙太郎	〃	〃	〃	協同組合日本映画撮影監督協会 理事長	
〃	後藤 亘	〃	〃	〃	株式会社エフエム東京 代表取締役会長	
〃	古森 重隆	〃	〃	〃	富士フィルム株式会社 代表取締役社長・CEO	
〃	佐藤 進	〃	〃	〃	株式会社東急レクリエーション 取締役相談役	
〃	佐藤 孝	〃	〃	〃	株式会社博報堂DYメディアパートナーズ 代表取締役社長	
〃	佐藤 忠男	〃	〃	〃	映画評論家	
〃	佐野 哲章	〃	〃	〃	株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント 映画部門 日本代表	
〃	品田 雄吉	〃	〃	〃	映画評論家	
〃	新藤 次郎	〃	〃	〃	協同組合日本映画製作者協会 代表理事	
〃	杉田 成道	〃	〃	〃	協同組合日本映画テレビプロデューサー協会 会長	
〃	鈴木 常承	〃	〃	〃	日本フィルムラボ協会 会長	
〃	高野 悦子	〃	〃	〃	岩波ホール 総支配人	
〃	塚田 芳夫	〃	〃	〃	社団法人映像文化製作者連盟 副会長	
〃	富山 省吾	〃	〃	〃	日本アカデミー賞協会 事務局長	
〃	林田 洋	〃	〃	〃	株式会社東北新社 代表取締役社長	
〃	原 正人	〃	〃	〃	アスミック・エース エンタテインメント株式会社 相談役	
〃	松岡 宏泰	〃	〃	〃	東宝東和株式会社 代表取締役社長	
〃	矢内 廣	〃	〃	〃	びあ株式会社 代表取締役社長	

2. 役員会等に関する事項

理事会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成21年6月29日	定例第1回 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成20年度事業実績報告及び収支決算承認の件 ・ 平成21年度収支予算の一部変更承認の件 	承認 "
平成21年6月29日	定例第2回 <ul style="list-style-type: none"> ・ 理事長選任の件 ・ 財団役員・法人間取引承認の件 ・ 新制度公益財団法人認定の場合の最初の代表理事選任の件 ・ 新制度公益財団法人移行申請に伴う定款案承認の件 ・ 財団諸規程の新設承認の件 	承認 " " " "
平成21年12月3日	臨時理事会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「賛助会員規程」の改訂案の承認の件 ・ 新制度公益財団法人への移行申請書類案の承認の件 	承認 "
平成22年3月29日	定例第3回 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成22年度事業計画案の承認の件 ・ 平成22年度収支予算案の承認の件 ・ 第22回東京国際映画祭実行委員会の解散の承認の件 ・ 第23回東京国際映画祭実行委員会の設置及び同委員選任案の承認の件 ・ 公益財団法人移行申請にかかる「定款案」の一部修正及びこれに伴う「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程案」の一部修正について承認の件 	承認 " " " "

評議員会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 2 1 年 6 月 2 9 日	定例第 1 回 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 2 0 年度事業実績報告及び収支決算承認の件 ・ 平成 2 1 年度収支予算の一部変更承認の件 ・ 任期満了に伴う理事、監事選任の件 ・ 財団役員・法人間取引の承認の件 ・ 新制度公益財団法人認定の場合の最初の理事、監事選任の件 ・ 新制度公益財団法人移行申請に伴う定款案承認の件 ・ 財団諸規程の新設承認の件 	承認 " " " " " "
平成 2 1 年 1 2 月 3 日	臨時評議員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「賛助会員規程」の改訂案の承認の件 ・ 新制度公益財団法人への移行申請書類案の承認の件 	承認 "
平成 2 2 年 3 月 2 9 日	定例第 2 回 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 2 2 年度事業計画案の承認の件 ・ 平成 2 2 年度収支予算案の承認の件 ・ 第 2 2 回東京国際映画祭実行委員会の解散の承認の件 ・ 第 2 3 回東京国際映画祭実行委員会の設置及び同委員選任案の承認の件 ・ 公益財団法人移行申請にかかる「定款案」の一部修正及びこれに伴う「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程案」の一部修正について承認の件 	承認 " " " "

3. 寄付金に関する事項

平成22年3月31日現在

(単位:千円)

寄付の目的	寄付者	寄付金額	受領年月日	備考
東京国際映画祭 開催費用	株式会社ティーワイリミテッド	19,000	平成21年7月29日	
	松竹株式会社	9,000	平成21年6月30日	
	東宝株式会社	9,000	平成21年6月30日	
	東映株式会社	9,000	平成21年6月30日	
	角川映画株式会社	9,000	平成21年6月30日	
	日活株式会社	9,000	平成22年1月5日	
	びあ株式会社	2,500	平成22年2月10日	
	富士フイルム株式会社	2,000	平成21年10月30日	
	社団法人映画文化協会	1,000	平成21年8月31日	
	東京電力株式会社	500	平成21年11月30日	
	合計	70,000		

4. 賛助会費に関する事項

(年会費 1口 50万円)

目的	会員名称	口数	会員名称	口数
	松竹株式会社	6	株式会社NHKエンタープライズ	2
	東宝株式会社	6	株式会社WOWOW	1
	東映株式会社	6	スカパーJSAT株式会社	1
	角川映画株式会社	6	株式会社衛星劇場	2
	日活株式会社	6	株式会社ニッポン放送	1
	ワーナー・エンターテインメント・ジャパン(株)	4	株式会社エフエム東京	1
	(株)ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメント	4	ジューターエンタテインメント(株)	1
	ウォルト・ディズニー・ジャパン(株)	4	株式会社ポニーキャニオン	3
	20世紀フォックス映画	4	(株)角川グループホールディングス	2
	パラマウント・ジャパン	4	びあ株式会社	1
	ギャガ株式会社	3	カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)	1
	株式会社東北新社	4	バンダイビジュアル(株)	1
	アスミック・エースエンタテインメント(株)	2	東宝アド株式会社	1
	株式会社ショウゲート	2	株式会社サウンドマン	1
	東京テアトル株式会社	2	株式会社クオラス	1
	(株)東急レクリエーション	1	イーハックス・エンタテインメント(株)	1
	TOHOシネマズ株式会社	1	株式会社電通	4
	大蔵映画株式会社	1	(株)博報堂DYメディア・パートナーズ	4
	佐々木興業株式会社	1	ソニー株式会社	1
	武蔵野興業株式会社	1	住友商事株式会社	1
	三和興行株式会社	1	コダック株式会社	1
	株式会社東京楽天地	1	富士フイルム株式会社	2
	東宝東和株式会社	4	株式会社日本シネアーツ社	1
	株式会社IMAGICA	1	トップツアー株式会社	1
	株式会社東京現像所	1	ウシオ電機株式会社	1
	報映産業株式会社	1	社団法人日本映像ソフト協会	4
	東映ラボ・テック株式会社	1	(株)ティーワイリミテッド	1
	シンエイ動画株式会社	1	(株)ヒューマックスシネマ	1
	東映アニメーション株式会社	2	株式会社チネチッタ	1
	日本テレビ放送網株式会社	4	株式会社タカラトミー	2
	株式会社TBSテレビ	4	株式会社小学館	2
	株式会社テレビ朝日	4	株式会社集英社	2
	株式会社フジテレビジョン	4	株式会社サンライズ社	1
	株式会社テレビ東京	3		
	合計	67社	151口	75,500,000円